

Wikiprint Book

Title: Trac リンク

Subject: SilverFrost - TracLinks

Version: 3

Date: 03/22/26 05:56:00

SilverFrost 目次

Trac リンク	3
TracLinks が使えるところ	3
TracLinks の高度な利用	4
相対リンク	4
InterWiki リンク	4
InterTrac リンク	4
サーバ相対リンク	5
Trac リンクで空白文字をエスケープする	5
リンクの無効化	5
パラメータ付きの Trac リンク	5
TracLinks リファレンス	5
attachment: リンク	6
query: リンク	6
search: リンク	6
ticket: リンク	6
timeline: リンク	6
wiki: リンク	6
バージョン管理に関連するリンク	6
source: リンク	6
export: リンク	7
log: リンク	7

Trac リンク

[TracLinks](#) は Trac の基礎となる機能です。というのも、[TracLinks](#) によってシステムのエントリ間 - チケット、レポート、チェンジセット、Wikiページ、マイルストーン、ソースファイルなど - で簡単にハイパーリンクすることができるからです。

[TracLinks](#) は通常、 type:id (id はアイテムの 番号や名前、パス) の形式で記述しますが、よく使われるコンポーネントについては、下の例のように表記を省略することもできます。

[TracLinks](#) が使えるところ

[TracLinks](#) が使えるのは:

- ソースコード (Subversion) のコミットメッセージ
- Wikiページ
- チケット、レポート、マイルストーンでの説明記述箇所

その他、[WikiFormatting](#) を利用可能なことが明示されているすべてのテキストフィールド。

例:

- チケット: #1, ticket:1
- チケットのコメント: comment:ticket:1:2
- レポート: {1}, report:1
- チェンジセット: r1, [1], changeset:1, (ディレクトリを限定) [1/trunk], changeset:1/trunk, [2:5/trunk]
- リビジョンログ: r1:3, [1:3], log:@1:3, log:trunk@1:3
- Diff ([0.10](#) 以降): diff:@1:3, diff:tags/trac-0.9.2/wiki-default//tags/trac-0.9.3/wiki-default, diff:trunk/trac@3538//sandbox/vc-refactoring@3539
- Wiki ページ: CamelCase, wiki:CamelCase
- 親ページ: [...]
- マイルストーン: milestone:1.0
- 添付ファイル: attachment:ticket:944:attachment.1073.diff
- ファイル: source:trunk/COPYING
- あるリビジョンのファイル: source:/trunk/COPYING#200
- あるリビジョンのファイルのある行数: source:/trunk/COPYING@200#L25

表示:

- チケット: [#1](#), [ticket:1](#)
- チケットのコメント: [comment:ticket:1:2](#)
- レポート: [{1}](#) or [report:1](#)
- チェンジセット: [r1](#), [\[1\]](#), [changeset:1](#), (ディレクトリを限定) [\[1/trunk\]](#), [changeset:1/trunk](#), [\[2:5/trunk\]](#)
- リビジョンログ: [r1:3](#), [\[1:3\]](#), [log:@1:3](#), [log:trunk@1:3](#)
- Diff ([0.10](#) 以降): [diff:@20:30](#), [diff:tags/trac-0.9.2/wiki-default//tags/trac-0.9.3/wiki-default](#), [diff:trunk/trac@3538//sandbox/vc-refactoring/trac@3539](#)
- Wiki ページ: [CamelCase](#), [wiki:CamelCase](#)
- 親ページ: [_.](#)
- マイルストーン: [milestone:1.0](#)
- 添付ファイル: [attachment:ticket:944:attachment.1073.diff](#)
- ファイル: [source:trunk/COPYING](#)
- あるリビジョンのファイル: [source:/trunk/COPYING#200](#)
- あるリビジョンのファイルのある行数: [source:/trunk/COPYING@200#L25](#)

Note: [wiki:CamelCase](#) の書式が使われることはほとんどありませんが、ページ名が [WikiPageNames](#) のルールに従っていないページ (一文字、アルファベット以外の文字、etc.) をリンクしたい場合には便利です。 [WikiPageNames](#) に Wiki ページ名へのリンクに関する特記事項が書いてあるので見て下さい。

フル表記の (簡略形でない) Trac リンクでは、次のようにしてリンクタイトルを カスタマイズすることもできます:

プレフィックスとして定義した他の Trac Environment の名前とコロンに続けて、あらゆる種類の Trac リンクを記述することで、一つの Trac Environment から他の Trac Environment のリソースを参照することができます。このリモートの Trac Environment は、名前そのものがエイリアスとして、あらかじめ登録しておく必要があります。詳しくは [InterTrac](#) を参照してください。

[InterWiki](#) リンクに対する [InterTrac](#) リンクの利点は、[InterTrac](#) リンクが Trac リンクの短縮書式を解釈できることにあります。例えば、チケットへのリンクは #T234 (T は Trac Project へのエイリアスに設定されているとします) と書くことができ、チェンジセットへのリンクは [trac 1508] と書くことができます。

サーバ相対リンク

静的リソースや newticket のような固定リンク、 /register ページのような サーバ内で共有するリソースなど、Trac のリンク機構にビルトインされていない リソースに対して Project 内でリンクする機能は時折、有用になります。

Project 内のリソースにリンクするためには、Project root からの絶対パスか、現在のページの URL からの相対リンクを使用します (0.11 で変更された箇所です):

```
[/newticket Create a new ticket]
[/ home]
```

表示: [newticket? home](#)

サーバ上の他のロケーション (Project の外部) にリンクするためには、'location' リンクシンタックスを使用します (0.11 で変更された箇所です):

```
[//register Register Here]
```

表示: [Register Here](#)

Trac リンクで空白文字をエスケープする

[TracLinks](#) のプレフィックスの後ろにスペースを含んだターゲットがある場合、シングルクォーテーションかダブルクォーテーションで囲みます。例:

- wiki:"The whitespace convention"
- attachment:'the file.txt' もしくは
- attachment:"the file.txt"
- attachment:"ticket:123:the file.txt"

リンクの無効化

TracLinks を無効化するには、先頭に '!' (エクスクラメーションマーク) を付けます。

```
!NoLinkHere.
![42] is not a link either.
```

表示:

NoLinkHere. [42] is not a link either.

パラメータ付きの Trac リンク

Trac リンクの対象となる Trac リソースは通常、パラメータで制御される複数の表示形式を持っています。例えば、Wiki ページでは version や format パラメータを使用でき、レポートでは動的変数の使用ができます。

あらゆる種類の Trac リンクは、URL のクエリパラメータに相当する方法で記述できる。任意の組み合わせのパラメータを持っています。例えば:

- wiki:WikiStart?format=txt
- ticket:1?version=1
- [/newticket?component=module1 create a ticket for module1]

[TracLinks](#) リファレンス

以下に示すセクションは特定のリンクの種類の詳細について記述しています。 [TracLinks](#) の上級者向けの使用方法も同時に記述します。

attachment: リンク

添付ファイルへのリンクのシンタックスは次に示すとおりです:

- attachment:the_file.txt は、現在のオブジェクトに添付されたファイル the_file.txt へのリンクを生成します。
- attachment:wiki:MyPage:the_file.txt は、Wiki ページ MyPage に添付されたファイル the_file.txt へのリンクを生成します。
- attachment:ticket:753:the_file.txt は、チケット 753 に添付されたファイル the_file.txt へのリンクを生成します。

query: リンク

[TracQuery#UsingTracLinks](#) と [#ticket:links](#) を参照してください。

search: リンク

[TracSearch#SearchLinks](#) を参照してください。

ticket: リンク

通常使用される ticket:id 形式のほか、id

の代わりにチケットのリストやチケットの範囲を指定できます。これはカスタムクエリの検索結果ビューへのリンクを生成します。検索結果は指定したチケット固定

例:

- ticket:5000-6000
- ticket:1,150

(Trac 0.11 以降)

timeline: リンク

タイムラインへのリンクは [ISO:8601](#) 形式で日付を指定して生成できます。日付の指定には、任意で時刻の指定を続けることもできます。この時刻は UTC 時刻で解釈されますが、UTC 時刻を使用したくない場合はタイムゾーンを続けて指定することで、ローカルタイムを使用できます。

例:

- timeline:2008-01-29
- timeline:2008-01-29T15:48
- timeline:2008-01-29T16:48Z+01

(Trac 0.11 以降)

wiki: リンク

[WikiPageNames](#) と、このページの [Trac リンクで空白文字をエスケープする](#) を参照してください。

バージョン管理に関連するリンク

source: リンク

[source:/some/path](#) 形式のリンクは、パスがディレクトリを示しているならばディレクトリブラウザを開き、それ以外の場合はリビジョンログを表示します。

特定のリビジョンを指定してリンクすることもできます :

- source:/some/file@123 - file のリビジョン 123 にリンクします。
- source:/some/file@head - file の最新リビジョンにリンクします。

ディレクトリブラウザを開き、それ以外の場合はリビジョンログを表示します。

リビジョンを指定した場合はさらに特定の行番号にリンクすることさえできます :

- source:/some/file@123#L10
- source:/tag/0.10@head#L10

さらに、特定の行をハイライト表示することもできます：

- `source:/some/file@123:10-20,100,103#L99` - 10 行目から 20 行目、100 行目、103 行目をハイライトします。

(0.11 以降)

export: リンク

ブラウザでリンクをクリックしたときに、リポジトリ内をブラウザに表示するのではなく、ダウンロードを強制するためには `export` リンクを使用します。いくつかの形式が使用できます：

- `export:/some/file` - file の最新リビジョンをダウンロードします。
- `export:123:/some/file` - file の リビジョン 123 をダウンロードします。
- `export:/some/file@123` - file の リビジョン 123 をダウンロードします。

リポジトリにチェックインされている HTML 文書を正しいスタイルシートと画像で表示する場合に、非常に役に立つ場合があります。

特定のファイルの代わりにリポジトリのディレクトリのパスが指定されると、ソースブラウザはディレクトリを表示します (`source:/some/dir` と同じ)。

log: リンク

log:

リンクはリビジョンの範囲を表示するために使用します。最も単純な形式では、特定パスの最新のリビジョン群へのリンクを生成します。リビジョンを指定すること

- `log:/` - リポジトリのルートディレクトリでの最新のリビジョン群
- `log:/trunk/tools` - trunk/tools での最新のリビジョン群
- `log:/trunk/tools@10000` - trunk/tools での 10000 から始まるリビジョン群 (訳注: 10000 以前のリビジョン)
- `log:@20788,20791:20795` - リビジョン 20788 と 20791 から 20795 までの範囲のリビジョンを表示する
- `log:/trunk/tools@20788,20791:20795` - リビジョン 20788 と 20791 から 20795 までの範囲のリビジョンのうち、 /trunk/tools に影響したものを表示する

リビジョン範囲の短縮形式は以下の通りです：

- `[20788,20791:20795]`
- `[20788,20791:20795/trunk/tools]`
- `r20791:20795` (ただし `r20788,20791:20795` や `r20791:20795/trunk` は使用できません)

最後に、上記のすべてについて、リビジョン範囲の書式は `x:y` と `x-y` のどちらでも使用することができます。

See also: [WikiFormatting](#), [TracWiki](#), [WikiPageNames](#), [InterTrac](#), [InterWiki](#)